

# 平成30年度 学校自己評価システムシート (埼玉県立草加西高等学校)

目指す学校像	人に優しく、自分に厳しく、社会に貢献する人間を育てる学校 ～自らの力で進路実現できる力を養う～
--------	--

重点目標	1 個に応じた学力の向上と、主体的に学ぶ意欲を育成する。
	2 自らの行動を律する力を身に付けるとともに、活力ある学校行事や部活動・生徒会活動を実現する。
	3 生徒が望む進路を実現するために、個々の進路希望に応じたきめ細かな指導を行う。
	4 地域との連携を強化し、信頼と期待に応える開かれた学校づくりを推進する。

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする

出席者	学校関係者	6	名
	生徒	8	名
	事務局(教職員)	8	名

年 度 目 標		学 校 自 己 評 価		年 度 評 価 (1月15日現在)		学 校 関 係 者 評 価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒、保護者の進路意識の向上により、授業内容の程度や進度について、検討や確認が必要となっている。</li> <li>生徒が主体的に学習に取り組む姿勢と、自発的に学ぶ力の育成が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学習意欲が向上するような授業進度や内容の改善、教師の教科指導力の向上</li> <li>生徒が自主的に学習に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①保護者アンケートの結果内容に基づき、生徒・保護者の求めに応じた授業内容や程度の改善を全教科において計画的に実施し、公表する。</li> <li>②長期休業中や放課後を活用して、進学者や就職者対象の補習を計画的に実施する。(通年)</li> <li>③教科と学年が連携し、資格試験の補習を充実し、資格取得を推進する。(通年)</li> <li>④教師の教科指導力を向上させるため、教員研修参加の機会を増やし、校内研修を実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒の家庭学習時間を昨年度より増加させ、基礎学力を向上させる。</li> <li>②成績優良者数を昨年度より増加させる。</li> <li>③資格試験の合格者が増加し、英検・漢検2級合格者を増加させる。(昨年度比)</li> <li>④教員間で授業を公開し、相互に研究し指導を高め合う機会を設ける。また、予備校実施の教育研修への参加者を推進させ、(昨年度5名以上)研修成果を校内研修会等で共有する。(2学期)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各教科が学力向上のための取組を検討し、「西高の学び」を作成して実施した。</li> <li>・教師の指導力向上のために、研修会参加を奨励し、日々の授業指導に還元させた。</li> <li>①各教科での協力から、生徒の家庭学習時間は若干であるが増加傾向を示した。</li> <li>②成績優良者の数は昨年より若干減少、欠点者数は昨年度より増加の傾向となった。</li> <li>③漢字検定合格率は昨年度と同程度を維持できた。特に、漢字検定2級に昨年度3名から5名合格するなど、大きな成果があった。</li> <li>④校外研修会へ5名の教員が参加し、成果を授業に還元するなど、教員の授業力向上への意識を高めることができた。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○各教科・学年・分掌との連携を深め、学習機会の増加や進学補講を実施するなど、生徒の家庭学習を習慣化させ、より一層の基礎学力の定着と向上を目指す。</li> <li>○成績優良者を5%以上増加させ、欠点者への丁寧な指導を継続していく。</li> <li>○進路指導部と連携し、教員相互の授業公開や学習指導教員研修会を通じて教員の指導力向上や研修意識を高める試みを更に推進する。</li> <li>○資格取得についてより積極的な呼びかけを行い、受検者数増加を図る。</li> <li>○教員対象の教育研究セミナーへ多くの教員が参加できるよう推進させる。</li> </ul>
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々のきめ細かな生徒指導を実施することにより生徒は前向きに学習に臨み、安定した学校生活を送れている。今後は、教員と生徒との信頼関係を強化し、一人一人が規律ある態度を実践し、将来へ向けた自主自立と必要な規範意識をより一層向上させることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自らの意志で行動を律する力の育成</li> <li>生徒一人一人の悩みに対応し、きめ細かな指導の実施と連携体制の構築</li> <li>交通ルールを遵守し、自ら安全に配慮し、事故を防ぐ意識の向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①担任・教科担当・部活動顧問が連携し、遅刻指導や身だしなみ指導等とおして、自らの意志で基本的な生活習慣が身に付くように指導する。(毎日)</li> <li>②-1 悩みや課題を抱えた生徒への対応として、スクールカウンセラーによる教育相談を実施する。(毎月)</li> <li>②-2 校内教育相談体制を充実し、草加分校と連携した体制を実現する。(通年)</li> <li>③学期毎に保護者と連携しての交通安全指導期間を設けて実施し、交通ルールやマナーを守る規範意識を高める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①欠席数や遅刻数が減少する。(昨年度比)</li> <li>②-1 転退学者が昨年度より減少する。</li> <li>②-2 草加分校と協力した教育相談対応やケース会議等を実施し、情報共有の機会を設定する。(通年)</li> <li>③交通安全ルールを守り、登下校時の交通事故が昨年度より減少する。(昨年度比)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日々の生活指導を通じて、生徒が自らの行動を律するための指導を行った。</li> <li>・スクールカウンセラーの面談件数が28件と、昨年度32件より数は減少している。今年度は生徒だけではなく、保護者も対象とし、家庭での支援方法や対応への助言を行った。</li> <li>・交通ルールの重要性を認識させ、自ら事故を防ぐ意識を向上させた。</li> <li>①欠席者は前年度比約3%減少、遅刻者は約25%増加した。</li> <li>②特別指導件数は前年度0件から4件に増加を示したが、転退学者は前年度8名から6名と減少傾向となった。</li> <li>③交通安全指導により、生徒の交通法規遵守の意識は向上している。今年度、交通事故は昨年度9件から6件に減少を示した。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>○全職員の共通理解のもと、生徒指導を実践していくことが重要である。今後も学年・分掌が連携してきめ細かな生徒指導を行うことが必要である。</li> <li>○様々な悩みを抱える生徒が多くなってきており、心理的な不安が中途退学につながる傾向がある。今後も校内支援委員会を中心に全教職員の理解と協力のもとに適切な支援を行うことが重要である。</li> <li>○交通安全の励行により、自ら防げる交通事故も多いため、今後も交通安全教育の推進と生徒自身の安全意識の向上を図る。</li> </ul>
3	<ul style="list-style-type: none"> <li>主体的・自主的に行動できる生徒は確実に増えているが、行動力や行動範囲が限定されていることが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>部活動や行事などにおいて他者から認められるような結果を出す</li> <li>生徒が自信を持てるような取り組みを実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒会活動の核となる生徒会本部の活動を充実し、行事運営を今まで以上に生徒主体で実施する。</li> <li>②部活動加入率を前年度同様(90%以上)維持し、各種大会やコンクールで上位入賞ができるよう適切かつ必要な指導者を配置する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①生徒会の本部役員が主体となって活動を活性化し、各学校行事等の企画・運営を今まで以上に生徒中心に行い、責任感と自信が持てる行動力を実践する。</li> <li>②部活動加入率を90%以上を維持し、運動部・文化部ともに、指導を通じて活動を活性化させ、多くの部活を県大会などの上位大会やコンクールなどに出場させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多数の運動部が県大会に出場し、上位入賞を果たした。行事や学校生活の場面で自主的に行動できる生徒が増えた。</li> <li>①生徒会行事の企画運営や学校行事の運営補助などに継続的に参加している生徒は、責任感も強く、主体的な行動ができた。</li> <li>②弓道部の2年連続インターハイ出場(8位入賞)をはじめ、県大会で上位入賞を果たす部活も複数でいる。文化部も活発に活動を行っている。部活動加入率は1年生93.3%、2年生83.3%、1・2年生合わせて88.3%となり、90%に近い数値となった。</li> <li>部活動は生徒の学校生活や心身の育成に重要な活動であるが、すべての部活に専門性の高い顧問の配置までは至っていない。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○専門的な指導者を配置し、活発な部活動を継続させることが重要である。</li> <li>○生徒会行事などにおいて、学年の枠を超えた取り組みを増やし、生徒の責任感や行動力をさらに培うための機会を設定することが重要である。</li> <li>○各部活動が活発になり、上位大会に出場する部の増加や、加入率も90%近くを維持できている一方で、生徒会予算に対する部活動費が多くなり、文化祭など他の予算の削減検討が大きな課題である。</li> </ul>
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科や各分掌との連携により、生徒の進路実現の達成率は98%を超えている。大学等への進学者も増加しつつあるが、進路実現に向けてチャレンジする意欲の向上と目標に向け最大限の準備を行うことが課題である。今後は、生徒の多様な進路希望に対応するとともに、更なる学力の向上と、進学者には一般受験に挑戦する意欲を培わせるとともに、将来社会で活躍できる人材としての力を育成することが課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>全教職員による進路指導体制の確立</li> <li>進路決定100%を実現する、個々に応じた指導の実践</li> <li>生徒や保護者への積極的かつ的確な進路情報の提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①進路指導部を中心に各学年が連携を図り、学年ごとに計画的に進路指導を行う。</li> <li>②進路指導部・教科や学年が連携して、補習・個別面談や小論文指導等の指導の他、教員向けの進路指導研修(進学指導全般)を実施する。</li> <li>③保護者会や個別面談等を通して、進路に関する情報を的確に提供し、質の高い進路指導を継続実施する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①年間を通じ、進路指導主事による進路講話や進路指導研修等の計画を予定通りに実施する。</li> <li>②3年生においては、進学・進学準備や就職等の進路決定100%を実現。1・2年生においては、学年での進路指導が活性化。特に1年生では、新しい高大接続に対応した指導を実施する。</li> <li>③大学等が実施する進路説明会へ教員を派遣し、常に新しい情報を把握、生徒面談等に還元する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全教職員が生徒の進路実現を目指し、生徒一人一人に応じた丁寧な指導や、外部研修会などへの積極的な参加を行った。</li> <li>・進路実現100%を達成するため、全教職員で取り組んだ。</li> <li>・保護者対象の進路説明会を開催し、情報提供を行った。</li> <li>①入学直後に、1年生に対する主事からの進路講話、進路研修会を実施し、早期の進路意識醸成を図った。</li> <li>②大学の一般受験者にチャレンジする生徒が増加した。就職試験では、第1回目内定率は85%と昨年とほぼ同様であった。各学年での進路指導が活発化し、1年生では、高大接続を見据え、探究活動を意図した新たな進路指導をスタートさせた。</li> <li>③進路指導部だけではなく、3学年教員が協力して多くの上級学校説明会に参加、情報を得ることができた。得られた情報を学年会等で共有し、生徒の指導や面談に役立てることができた。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○入学当初の1年生に対する講話は、早期に進路意識を高めるために重要であるため、継続する。</li> <li>○次年度3年生大学希望者への指導は、旧制度最後の入試制度になる事を踏まえ、例年よりも慎重な指導を行うことが必要である。1・2年生は新たな高大接続に対応させつつ、大学希望者へは外部模試等の受験を薦め、希望校への一般受験に対応する学力を養う指導実施が重要である。</li> <li>○常に上級学校の新たな情報を収集し、進路指導に活用させるため、積極的に外部説明会等への教員参加を進める。</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>積極的な情報発信と施設開放、地域ボランティア等の参加協力で開かれた学校づくりを推進している。地域の小・中学校との交流を継続して実施するとともに定着化させることが課題である。</li> <li>学校行事や授業公開への保護者の参加数は年々増加している。PTA活動への保護者理解と参加者の拡大が課題である。</li> <li>草加かやき特別支援草加分校との交流は良好である。更に相互理解を推進するため、新たな交流の検討と実施が課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地元住民や近隣学校との交流の推進</li> <li>学校・PTA・後援会との連携・協力体制の整備と活動広報の推進</li> <li>草加分校との連絡連携体制の構築と教育活動への相互協力体制の強化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①地域住民や小・中学校等との連携を図り、地域の高校としての認知度を高める。</li> <li>②PTA・後援会理事会を中心として、保護者間の連絡や連携を強化し、活動の理解と各種行事等に参加しやすい環境を整える。</li> <li>③草加分校と連携し、日々の連絡を共有する体制を構築する。また、各種行事の共同開催や放課後の部活動を合同で行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>①学校説明会への参加者を昨年度(526名)より増加させる。(650人以上)</li> <li>②-1 地域ボランティア活動への参加部活と生徒数を増加させる。</li> <li>②-2 保護者の授業公開やPTA活動、各種行事等への参加数を増加させ、学校への関心を高める。</li> <li>③合同での行事実施を行い、相互の交流が積極的になされ、生徒の共生意識と他者への思いやる心を醸成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の小中学校を訪問し、部活動交流体験や出前授業の実施した。また、警察署や地域の方々との活動に参加し、社会貢献活動を推進した。</li> <li>・PTA活動を見直し、研修会等の対外的活動への参加活性化と学校内外における活動の再構築を行った。</li> <li>・草加西分校との連携を密にし、協力体制の強化と、新たな交流実施を図った。</li> <li>①学校説明会への参加者総数は705名と昨年度542名より増えた。12月現在の進路希望状況は昨年度の1.20倍から1.47倍と大幅に上昇し、本校を第一志望とする生徒が増加した。また、地域の貢献活動や部活動交流体験には5つ以上の部活動が参加し、昨年の3部活を上回る事ができた。</li> <li>②保護者の授業公開参加者は、95名と昨年度より増加した。また、公開講座への参加者は約50名とほぼ昨年同数であった。</li> <li>③草加分校との交流は、体育祭や文化祭、ロードレース大会など、各行事を通じて積極的に行うことができた。また、運動部との交流活動を新たに実施することができた。今後も推進させる。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>○地域社会貢献活動や部活動交流への参加など、生徒の貢献意識の高まりを大きく感じている。本校に対する地域の理解は深まりつつあり、更に生徒が活躍できる場や機会を作り出すことが課題である。中学校への出前授業やボランティアチャーター派遣、小学生とのスポーツ交流など、積極的な地域活動を推進し継続させることが重要である。</li> <li>○学校HPを活用し、学校の教育活動への取組を積極的に発信し、地域の理解や協力を推進する。</li> <li>○部活動を通じた草加分校との新たな交流活動を実施することができた。活動の定常化が課題である。</li> </ul>

学校関係者評価	
実施日	平成31年 2月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<p>○全般的にしっかりとした指導を行っている。今後も様々な取組を継続させて欲しい。</p> <p>○生徒の学力向上の課題として、家庭学習に主体的に取り組めるような内容や質の向上を提案していく必要がある。また、学力向上は成績の中間層を含めた全体的な底上げが必要である。今後は全体的な向上への取組を検討し、実践してもらいたい。</p> <p>○教員が外部研修会に参加し、研鑽を深めることは大変評価できる。今後も多くの教員が参加できるように、学校としても推進してほしい。また、研修で得た内容を校内研修会などを活用し、教員間で共有、授業へ還元してもらいたい。</p> <p>○しっかりとした指導を行っており、生徒も落ちついて学校生活に臨んでいることが理解できる。今後も生徒が安心できる学校環境を構築してほしい。</p> <p>○生徒が安心して学校生活に臨めることで、将来的な目標も培われてくる。生徒指導とともに、生徒の進路実現に向けた指導もしっかりと行ってほしい。</p> <p>○各部活動が活発に活動し、良い成績を取めていることは、学校全体の活性化にもつながっている。予算面などの課題もあるが、学校としても、生徒の頑張りを支えてほしい。</p> <p>○生徒一人一人が自分の役割を認識し、西高校を今後どのようにしていきたいかを考えて頑張ってもらいたい。自分自身に自信を持って、様々なことにチャレンジしてほしい。</p> <p>○生徒への進路意識を早期に醸成させる学校の取組はとても評価できる。</p> <p>○生徒が進路や将来に対する高い意識やこだわりを持ち、実現に向けて頑張っていることは大変素晴らしいことである。様々な希望を実現させるため、学校全体で取り組んでいることをもっと情報発信すべきである。今後も生徒の進路実現のために頑張ってもらいたい。</p> <p>○地域や社会に貢献することの大切さを生徒一人一人が感じ、部活動やボランティアなどの活動を通じて活躍できる場を多く作り出してもらいたい。生徒の活動が学校教育活動の理解につながると思う。地域からの信頼と協力を得られるよう、より一層、開かれた学校づくりを推進してもらいたい。</p>	